



2015 PUBLIC EXAMINATION

Heritage Japanese

Section 1: Responding to texts

Transcript of Listening Texts

— Text 1

— Text 2

— Text 3

Familiarisation Text

MALE: ぼくの両親は日本人ですが、ぼくはオーストラリアで生まれて、学校もオーストラリアの学校に行きました。

FEMALE: 私の母は日本人ですが父はオーストラリア人です。日本で生まれて、小学校5年生の時オーストラリアに来ました。

Section 1: Responding to texts

Question 1, Text 1 – Announcement

皆さん、こんにちは。水泳クラブのコーチとして、今日は3つのことを話したいと思います。

始めに、最近、練習時間が以前より増えて、厳しくなっています。これは、国際大会が近づいているからです。この大会では、あなた自身が競争するだけでなく、チームイベントなのです。つまり、それぞれのレースのポイントを足して、どのクラブが一番になるかが決まるということです。今年これに勝つのが私たちの目標ですから、皆さんに一番のパフォーマンスをして欲しいと思っています。

次に、個人的、もしくは家族に関する理由で練習を休む事は許しません。家族との夕食や友達と遊んで夜が遅くなったから、朝早く起きることができなかったという言い訳は使わないようにしてください。

最後に、健康的でなければなりません。バランスのとれた食事を取って、ジャンクフードを避けるようにすること。エネルギーを保つために、パスタのようなたんすいかぶつをたくさん食べるべきです。毎晩、早く寝て、少なくとも8時間の睡眠がとれるようにしてください。

このようにすれば、世界水泳のレベルでも、成功することができるでしょう。

Question 2, Text 2 – Dialogue

FEMALE : 高田くん、ちょっといい？

MALE : 後藤さん、遅れてすみません。今日は少し寝坊してしまって。

FEMALE : あなたは普段は遅刻しない事、知っていますよ。でも、いつも朝8時45分にはここにいるということが大切です。それに、いくつか話したい点があります。ここはシドニーにある免税店ですが、日本人のお客様がたくさんいらっしゃいます。その場合、お客様に対して、どうしないといけない？

MALE : えっと、挨拶をするのが大切ですよ。

FEMALE : でも、時々お客様に挨拶するとき、頭だけ動かしているところを見るんだけど。

MALE : お辞儀じぎをしていますよ。

FEMALE : そうですか、それは、とても良いことですね。私たちがお客様をどれくらい大切にしているか、お辞儀じぎの仕方しめで示せますよね。

MALE : あー、それはそうですね。わかりました、僕は少し変えないといけないですね。僕のお辞儀じぎは頭を動かすこととあまり変わらなかったの。

FEMALE : わかってくれてよかったです。

MALE : 他に何かありますか。

FEMALE : そうですね、あなたはとても礼儀正れいぎしいんですが、お店で働くとき、それだけでは駄目だめですね。

MALE : すみません、どういう意味ですか。

FEMALE : 以前あなたが「こっちに来てください」ってお客様を案内していたのがちょっと気になったのよ。

MALE : あー。はい。

FEMALE : それに、お客様に「これはどうですか」って対応していたのも聞いたの。この店では、カスタマーサービスに誇りほこを持っているんです。高田君はお客様にはどのような言葉を使って話すべきだと思いますか。

それに昨日、何人かの人があなたのサポートを必要としていたのに、あなたは携帯電話けいたいを見ていましたね。休憩ぎゅけいの時間には携帯電話けいたいを使っていいですが、お客様が、手伝ってくださいというのはおかしいですね。

MALE : はい、その通りです。僕は、それがどれほど大切か、わかっていませんでした。今後、気をつけます。

FEMALE : わかってくれて、良かったです。今週末、5人の新しいアルバイト社員がオリエンテーションに来ます。今日私たちが話した事を、高田くん、あなたが、彼らに伝える良い機会きかいだと思います。お店でどのように働けばいいのかについてのスピーチを作ってくれませんか。

Question 3, Text 3 – Conversation

FEMALE : 携帯^{けいたい}のゲームの音量を下げなさい。

MALE : でもお母さん、音があった方がゲームやりやすいんだよ。

FEMALE : しっ、あなたの声！うるさいわよ。他の人に迷惑でしょ。

MALE : もし、うるさいと思ったら、その人たちが別の車両に行ったらいいんだ。

FEMALE : (ため息) お母さんが若い時は他の人のことを考えて迷惑をかけないようにしていたんだけど。

MALE : 僕が話さなくても、他の人だって話してるじゃないか。

FEMALE : 少なくとも、あなたのかばんは、席からおろしたら。誰か座りたいかもしれないでしょ。

MALE : 座りたい人がいれば、その人がそう言えばいいんだよ。みんなそうしているんだから…

FEMALE : だからといって、それがいいとは限らないでしょ…電車を降りるまで、サンドイッチを食べるの待ったら？

MALE : でもお母さん、おなかすいちゃった。

FEMALE : 我慢しなくちゃいけないときもあるでしょ。

MALE : どうして我慢しなきゃいけないの。(ゴミを捨てる音)

FEMALE : ゴミをひろいなさい！

MALE : 掃除の人が、きれいにするよ。

FEMALE : お母さん、恥ずかしいわ。あそこに座っている人は、どう思うかしら。